# 令和６年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果(市の概要)

令和７年３月２８日
鹿児島市教育委員会

## １　調査の概要

### (1) 調査の目的

ア　国が全国的な子供の体力の状況を把握･分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ　各教育委員会が、自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ　各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

| 学校種 | 実施学年 | 実施学校数(校) | | | 実施児童生徒数(人) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 本市 | 県 | 全国 | 本市 | 県 | 全国 |
| 小学校 | ５学年 | 78 | 482 | 18,609 | 5,103 | 13,826 | 969,223 |
| 中学校 | ２学年 | 36 | 226 | 9,306 | 3,732 | 11,690 | 814,437 |

本調査は、平成20年度から希望校により開始され、小･中学校の希望校の合計は、初年度72校、21年度83校であった。22年度は抽出による22校、23年度は震災のため中止、24年度26校で実施した。25年度から全校が対象となったが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。

### (3) 調査事項

ア　児童生徒に対する調査

(ｱ) 実技に関する調査（測定方法については、新体力テストと同様）
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20ｍシャトルラン、50ｍ走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(小学校)、ハンドボール投げ(中学校)

(ｲ) 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等

イ　学校に対する調査

(ｱ) 質問紙調査（子供の体力の向上に係る学校の取組等）

### (4) 調査期間

令和６年４月から令和６年７月末までの期間

## ２　調査結果の概要（詳細については、調査まとめ｢別紙１～５｣を参照）

※　Ｔ得点とは｢全国平均(50とする)に対する相対的位置｣を示す。(Ｔ得点=偏差/標準偏差)

※　全国平均等との比較は、以下を基に表現する。

＜Ｔ得点の場合＞

＜％の場合＞

±２％以内　…ほぼ同じ　　±2.1～５％以内　…やや低い・高い

±5.1％以上 …低い・高い

＜総運動時間の表現について＞

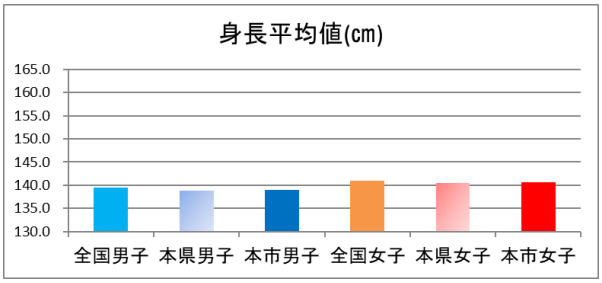
±35 分より長(短)い　‥‥長(短)い

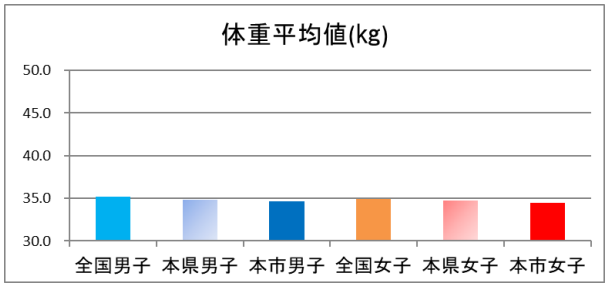
±21～±35 分未満　‥‥‥わずかに長(短)い

±21　　未満　‥‥‥‥‥‥ほとんど差がない

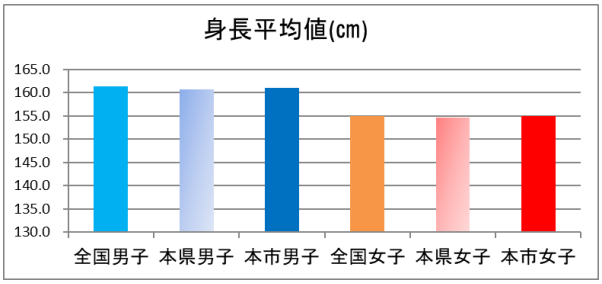
## (1) 体格について

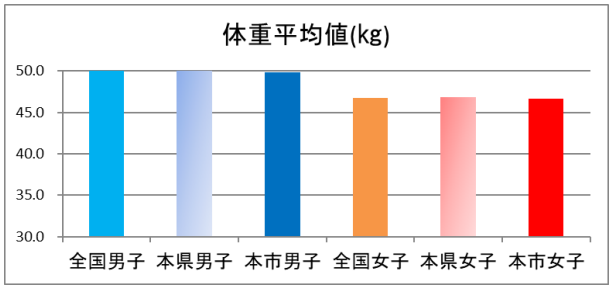
### ア　小学校の状況




### イ　中学校の状況

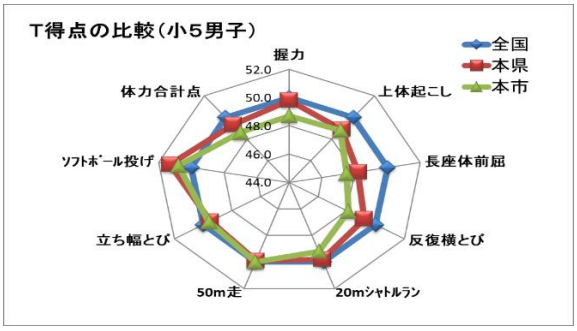


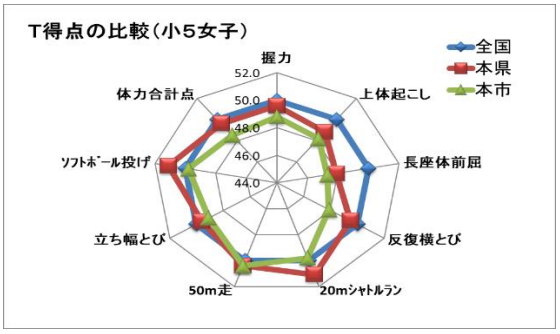




【全国平均との比較】
小学校男女の体格は、身長、体重共にほぼ同じである。
中学校男女の体格は、身長、体重共にほぼ同じである。

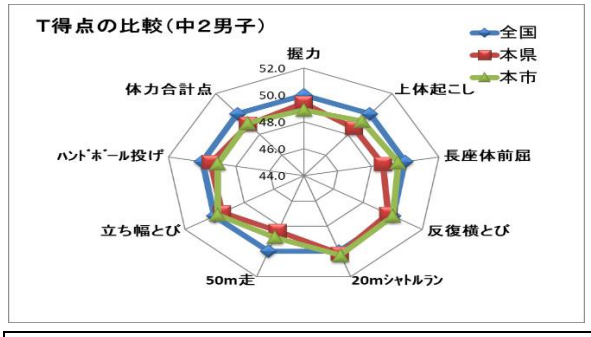
## (2) 体力について

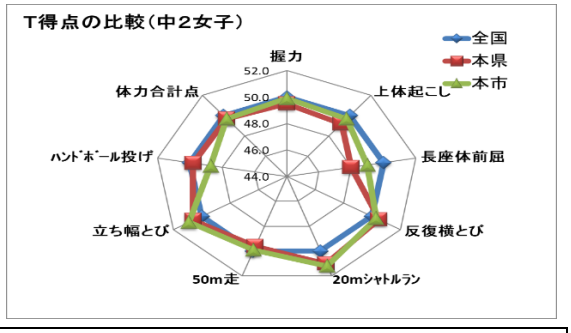
### ア　小学校の状況




### イ　中学校の状況

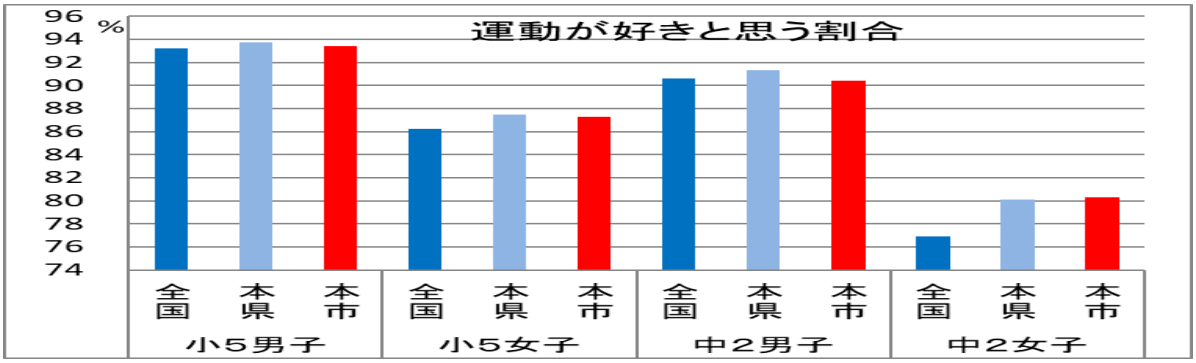



【全国平均との比較】
小学校の体力は、男女の長座体前屈と女子の反復横跳びが低い。男女の握力、上体起こし、男子の反復横跳びはやや低く、その他の種目はほぼ同じであり、合計点は男女ともに、やや低い。
中学校の体力は、女子の 20ｍシャトルランがやや高いが、男子の握力、50ｍ走、女子のハンドボール投げがやや低い。その他の種目はほぼ同じである。

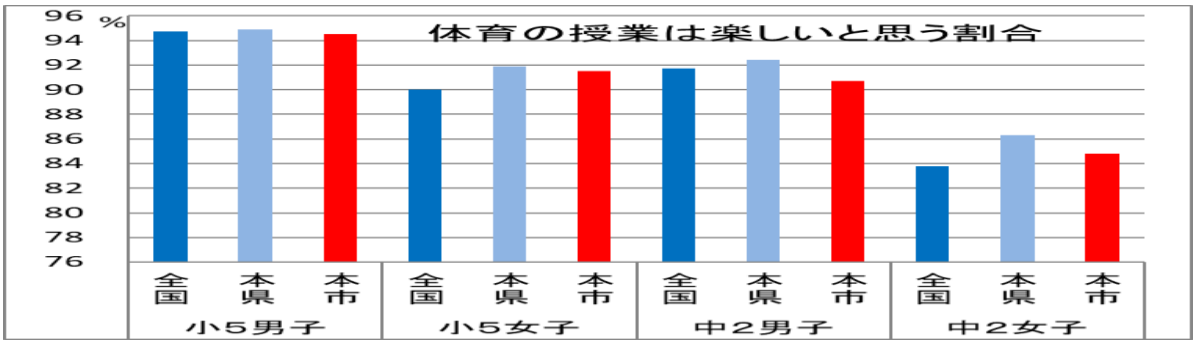
(3) 運動習慣等について

ア　「運動が好き（やや好きを含む）」思う割合




【全国平均との比較】
運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した割合は、小学校男女と中学校男子は約９割、中学校女子は約８割となっており、小学校、中学校共にほぼ同じである。

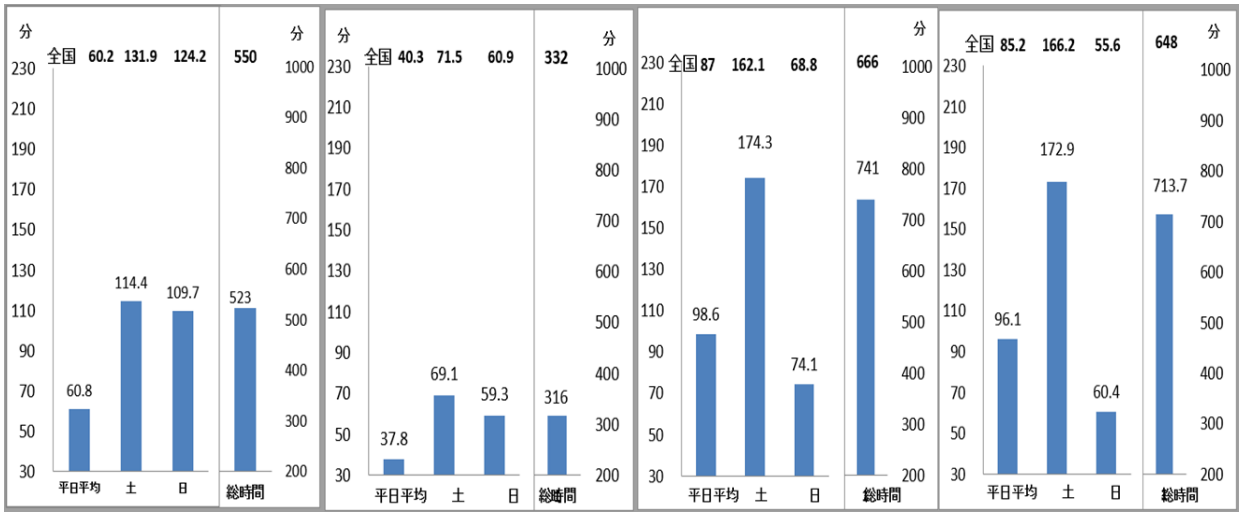
イ　体育の授業は楽しい（やや楽しい）と思う割合




【全国平均との比較】
「体育の授業は楽しい」について「楽しい」「やや楽しい」と回答した割合は、小学校男女、中学校男子が９割、中学校女子が８割であり、小学校男女と中学校男女ともにほぼ同じである。

ウ　１週間の総運動時間（「授業以外で、運動やスポーツを１日で何分くらいするか」）

「小５男子」　「小５女子」　「中２男子」　「中２女子」




【全国平均との比較】
１週間の総運動時間は、小学校男子がわずかに短く、女子はほとんど差がない。中学校男女はともに長い。
平日の平均実施時間は、小学校男女はほとんど差がなく、中学校男女は長い。土曜日、日曜日の平均実施時間は、小学校男子は短く、小学校女子はほとんど差がなく、中学校男女はわずかに長い。

### (4) 体力の現状と課題について

体力合計点を全国平均と比較すると､小学校男女がやや低い傾向にあり、中学校男女がほぼ同じである。

種目別では、小学校は男女の長座体前屈と女子の反復横跳びが低く、男女の握力、上体起こし、男子の反復横跳びがやや低く、その他の種目はほぼ同じである。昨年度、改善傾向にあった男女の長座体前屈が全国平均の差が広がり、反復横跳びは、ここ数年、全国平均より低く、柔軟性や筋持久力、瞬発力を改善することが課題である。

また、中学校の体力は､女子の２０ｍシャトルランがやや高く、男子の握力と５０ｍ走、女子のハンドボール投げがやや低い。その他の種目はほぼ同じである。

男女の長座体前屈については、ここ数年、全国平均より低い傾向があり、柔軟性を改善することが課題である。

運動習慣等については、１週間の総運動時間は､小学校男子がわずかに短く、女子はほとんど差がない。中学校男女はともに長い。また、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した割合は、小学校男女と中学校男子が概ね９割、中学校女子が８割で全国平均とほぼ同様の傾向にあり、「体育の授業が楽しい」と回答した割合は、小学校男女と中学校男子が概ね９割、中学校女子が８割で、全国平均とほぼ同様の傾向にある。

## ３　今後の対策等

### (1) 学校の取組について

ア　自校の実態把握を基に課題を明確にし、その改善を図る具体的な方策を盛り込んだ体力向上全体計画・指導計画を作成し職員で共有する。

イ　自校の課題となる体力要素の向上に取組む「ちょトレ」（ちょっとした時間に手軽に取り組むトレーニング）運動の取組を設定し、継続した取組により体力の向上を図る。

ウ　体育の授業では、体力合計点と相関が見られる活動（３つのポイント：めあての提示、課題解決的な学習、振り返りの活動の設定）を明確に位置付ける。また、児童生徒が主体的に学び合う活動等の中で、運動の特性に触れたり、技能の向上が図られたりする経験を通して、運動好きな児童生徒を育成する。

エ　世界保健機関(WHO)や多くの国々が推奨する１日６０分以上の身体活動への手立てとして、｢一校一運動｣や｢チャレンジかごしま｣などの活動を取り入れていく。

オ　タブレット端末を活用して課題の発見や動き・ポイントの確認、仲間との交流や振り返り等を充実させるとともに、鹿児島県体力診断プログラム「体力ナビ」を活用し、児童生徒一人一人の課題を基にした「個人カルテ」を作成し、児童生徒の主体的・継続的な運動の実践を推進する。

カ　運動を取り入れた生活習慣の定着を図るために、生活リズムや望ましい食習慣、睡眠などと関連させて、教育活動全体を通して指導していくとともに、家庭への啓発を図る。

キ　本調査結果等について家庭との共有に努め、休日の戸外等での遊びや親子等での運動への取組みを推奨する。また、「する・みる・支える・知る」の多様なスポーツとの関わり方ができるように校区や地域のスポーツ活動の情報等を提供する。

### (2) 教育委員会の取組について

ア　「新体力テスト指導のポイントシート」の活用を促進し、体力テストを実施し、実態の把握を行う。その中で、各校の体力課題解決に向けた「一校一運動」や「ちょトレ」等の具体的な方策と継続した体力向上に向けた取組を推進する。

イ　体育実技研修会等において、授業改善の視点にもとづいた具体的な取組みについて共有し、授業の改善を図る。

また、県が推奨する「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組みや申告を積極的に推進していく。

ウ　「体力向上」研究協力校（鹿児島玉龍中学校）の実践内容や研究成果等の自校化に加え、研究授業への講師招聘と他校種を含めた近隣の学校に積極的な参加を促し、小中連携をとおした指導力の向上を図る。